

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



再考：今井祝雄の白

A Reappraisal of Norio Imai's White



《白のセレモニー - HOLES》

アクリル、綿布、プラスチック型 | 255.3 x 316.5 x 18 cm | 1966/2014 | 撮影: 表恒匡

今井祝雄は1964年に個展「17才の証言」で作家デビューしました。特に1964年、65年、66年には次々と矩形や不定形の白色レリーフ作品を制作し、具体美術展¹はもとより、当時日本各地でさかんに開催されたアンデパンダン展などにも積極的に参加し、それらに白色レリーフ作品を出品しました。シンプルな形状に滑らかに塗られた白によって表われる起伏や、穿たれた穴が呼び起こす光と影の鮮烈なイメージの作品は、10代の青年作家が醸し出す瑞々しさと同時に強烈な印象を残しました。当時の今井作品の大半は、現在では欧米やアジア各地へと海を渡りましたが、本展では、国内に僅かに現存するビンテージ作品、60年代作品の再制作²、さらに多彩な展開を見せる追制作³と今なお作家が取り組む白色作品に焦点をあてます。1960年代の後半以降は写真や映像、音などの多様なメディアを制作に取り込み、現在までコンセプチュアル作品の制作発表を継続する今井の、長い作家キャリアの原点にある白の作品世界を改めてご紹介します。

1. 今井は1964年の第14回具体美術展より継続して出品。1965年には19歳で具体美術協会最年少会員となり、1966年にはグタイピナコテカにて個展が開催された。
2. 当時の今井は20歳前後。精力的に制作を続けていたが、材料、費用の事情から、全ての作品を保管することはできず、止むを得ず発表作品を解体し、使われていた材料を転用して次の制作に充てることがあった。それら発表後解体され現存しない作品について、当時の制作ノートや写真、また一部に当時の残存部材を使用して、今井自身が後年、再制作を行った。
3. 今井は自ら次のように「追制作」を説明する。
— 作者が当時にやり残したイメージやコンセプトに接続する展開、あるいは過去作から想を得て後年制作された新バージョンともいえる作品です。「具体」の野外作品や「もの派」などのサイトスペシフィックなインスタレーションにおいては、再制作というより「再演」に近い「追制作」といえます。マン・レイ作品には同モチーフによるやや形態が異なるマルチプル・エディションが幾つか見られますが、作品のメッセージは変わらない反復的な追制作といえます。広義では同作者の手になる過去の表現に端を発した再追求といえるでしょう。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：再考：今井祝雄の白 *A Reappraisal of Norio Imai's White*

会期：2026年7月11日[土] - 8月29日[土]

日月祝 および 8月9日-8月17日 休廊

会場：アートコートギャラリー

開廊時間：11:00-18:00

*土曜日17:00まで、7/25は天神祭の交通規制のため15:00まで

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント)

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

◆ 関連イベント

7月11日[土]

14:00-15:30 対談

高橋綾子(名古屋造形大学教授) x 今井祝雄

15:30-17:00 レセプション

予約制(先着20名様) ご予約はメールまたは電話にて承ります

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 福田・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

再考：今井祝雄の白 *A Reappraisal of Norio Imai's White*



◆ 主な出展作品

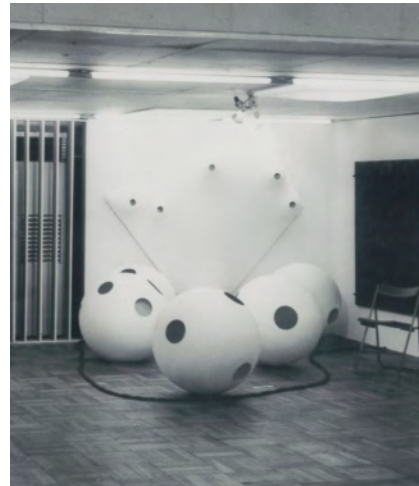


《白のセレモニー - HOLES》

アクリル、綿布、プラスチック型 | 255.3 x 316.5 x 18 cm
1966/2014 | 撮影: 表恒匡

| 出展歴 |

2023 Art Week Tokyo Focus: 平衡世界 日本のアート、戦後から今日まで (大倉集古館、東京) *再制作作品を出展
1966 第17回具体美術展(高島屋、横浜)



参考: 第17回具体美術展(高島屋、横浜、1966年)での展示風景
作家提供



《作品 E - 四つの線分》

アクリル、綿布、木型 | 182 x 182 x 8.5 cm
1965/2025 | 撮影: 来田猛

| 出展歴 |

1965 アンデパンダン・アート・フェスティバル
(岐阜市民センター[現 岐阜市文化センター])



《白のセレモニー C》

アクリル、綿布、プラスチック型 | 162 x 130.3 x 20 cm
1966/2012 | 撮影: 表恒匡

| 主な出展歴 |

1966 個展(グタイピナコテカ、大阪)

◆ 今井祝雄 Norio Imai



1946 大阪府生まれ
 1964 第14回具体美術展へ出品。1972年の解散まで全ての具体美術展に参加。
 1965 大阪市立工芸高等学校[現 大阪府立工芸高等学校]美術科洋画コース卒業
 具体美術協会会員となる。
 1966 第10回シェル美術賞 一等賞受賞
 1979 毎日の自画像《デイリーポートレート》の制作を開始(現在も継続)
 1991 第2回大阪市都市環境アメニティ表彰
 著書に『白からはじまる私の美術ノート』(ブレーンセンター、2001年)、『余白とフレームー私の美術ノート』(水声社、2022年)、ほか。

|主な個展|

2024 今井祝雄ー長い未来をひきつれて(芦屋市立美術博物館)
 今井祝雄展(アートコートギャラリー、大阪) [’23, ’19, ’16, ’14, ’12]
 2023 Norio Imai: Time Scape(Axel Vervoordt Gallery、香港)
 2018 Norio Imai: Material Ecstasy(Axel Vervoordt Gallery、ワインエーゲム、ベルギー)
 2016 白のイベント×映像 1966-2016(Yumiko Chiba Associates、東京)
 2013 Norio Imai: White Event(Axel Vervoordt Gallery、アントワープ)
 2005 今井祝雄ーデイリーポートレートの四半世紀(夢創館、神戸)
 1981 ビデオによる個展(The Bank、アムステルダム)
 Videotape Performance(ビデオギャラリーSCAN、東京)
 1980 矩形の時間(ギャラリーキタノサーカス、神戸)
 1979 自画像による個展(番画廊、大阪)
 1971 個展(ウォーカー画廊、東京)
 1966 個展(グタイピナコテカ、大阪)
 1964 17才の証言(ヌーヌ画廊、大阪)

|主な収蔵先|

芦屋市立美術博物館
 大阪中之島美術館
 京都国立近代美術館
 国立国際美術館
 滋賀県立美術館
 東京都写真美術館
 兵庫県立美術館
 宮城県美術館
 Axel and May Vervoordt Foundation(ベルギー)
 Getty Research Institute(ロサンゼルス)
 Rachofsky Collection(ダラス、アメリカ)
 Pharmascience Collection(カナダ)
 天目里美術館(杭州、中国)

|主なグループ展|

2026 New Humans: Memories of the Future(ニューミュージアム、ニューヨーク)
 2025 Asian Avant-Garde Film Festival 2025: Time Will Tell(M+、香港)
 2024 Seoul Mediacity Pre-Biennale(ソウル市立美術館内 SeMA Bunker、韓国)
 2023 Art Week Tokyo Focus: 平衡世界 日本のアート、戦後から今日まで(大倉集古館、東京)
 風景論以後(東京都写真美術館、東京)
 Re: スタートライン 1963-1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館とアーティストの共感関係(京都国立近代美術館)
 2022 すべて未知の世界へーGUTAI 分化と統合(大阪中之島美術館/国立国際美術館、大阪)
 2018 具体ー絵画の空間と時間(スラージュ美術館、ロデス、フランス)
 2016 Performing for the Camera(テート・モダン、ロンドン)
 2015 Re:play 1972/2015ー「映像表現 '72」展、再演(東京国立近代美術館)
 2013 Gutai: Splendid Playground(グッゲンハイム美術館、ニューヨーク)
 2012 「具体」ーニッポンの前衛 18年の軌跡(国立新美術館、東京)
 2011 Nul=0: The Dutch Nul Group in an International Context(スヒーダム市立美術館、オランダ)
 2009 ヴァイタル・シグナルー日米初期ビデオアート(ジャパソサエティ、ニューヨーク/ボストン美術館/横浜市美術館/国立国際美術館 ほかへ2010)
 2007 Radical Communication: Japanese Video Art 1968-1988(ゲティセンター、ロサンゼルス)
 2000 震災から5年 震災と美術ー1.17から生まれたもの(兵庫県立近代美術館[現 兵庫県立美術館])
 1994 時間/美術ー20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館[現 滋賀県立美術館])
 1990 European Media Art Festival(オスナブリュック、ドイツ)
 1988 日本先端科技藝展(台湾省立美術館[現 國立台湾美術館]、台中)
 1983 現代美術における写真ー1970年代の美術を中心として(東京国立近代美術館/京都国立近代美術館)
 1978 アンダーグラウンド・シネマから個人映画まで(東京都美術館)
 1975 International Open Encounter on Video(エスバス・ピエール・カルダン、パリ/フェラーラ市立近代美術館、イタリア/CAYC、プエノスアイレス)
 1974 第11回日本国際美術展ー複製、映像時代のリアリズム(東京都美術館)
 1973 第8回ジャパン・アート・フェスティバル(リュブリアナ近代美術館、ユーゴスラビア/マンハイム市立美術館、ドイツ)
 1971 第10回現代日本美術展ー人間と自然(東京都美術館/京都市美術館)
 1970 第16回 オーベルハウゼン国際短編映画祭(オーベルハウゼン市内各所、ドイツ)
 万国博美術展(万国博美術館、大阪)
 1968 Contemporary Japanese Art: Fluorescent Chrysanthemum(Institute of Contemporary Arts、ロンドン)
 第8回現代日本美術展(東京都美術館/京都市美術館)
 1967 第1回草月実験映画祭(草月会館ホール、東京/弥栄会館、京都)
 第5回パリ青年ビエンナーレ(パリ市立近代美術館)
 1966 ヌル国際展(国際画廊、デン・ハーグ、オランダ)
 空間から環境へ(松屋、東京)
 現代美術の動向(国立近代美術館京都分館[現 京都国立近代美術館])
 1965 アンデパンダン・アート・フェスティバル(岐阜市民センター[現 岐阜市文化センター]/金公園/長良川河畔)